

# 校長あいさつ



清水 礼子

平成28年度が始まりました。

学校経営理念を「法令及び国・県や世羅町の教育行政施策を基盤とし、地域・保護者の願い，児童の実態を踏まえ，教職員が協力し，学校教育推進体制を確立して、『知・徳・体』の調和のとれた人間性豊かな児童の育成に努める」として経営を進めます。

特に，世羅町教育プラン「豊かな心をもち，たくましく未来を拓く」目標のもと，「しなやかで，品格のある世羅の子ども」の姿を求めて，本校では，主体的な学びの充実とたくましさを身に付けた児童の育成，そして，教師自ら学び，たくましく生きていくことを目指して，平成28年度せらにし小学校教育を発進しました。

本年度は，広島県においても，グローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデル，広島版「学びの変革」アクション・プランが示されて2年目で，本校は，実践指定校事業に取り組み，主体的な学びの充実を求めていきます。子どもの学びの実態とめざす姿を求めて，授業実践するための力を出します。

また，3つの特色のある学校づくりを推進します。学校生活に英語を取り入れた「英会話の日常化，生活化」の取組，「和太鼓演奏」の発表に向けて，心と体を鍛え，自信と誇りをもたせる取組，「小中連携の強化そして，一貫教育へ」の取組を加速していきます。

全職員で力を合わせ，心を合わせて，子どもを守り，育てます。  
どうぞよろしくお願いいたします。

平成28年 4月

# 管理職を 楽しむ

2015

<8>

広島県世羅町立せらにし  
小学校の朝は英語で始ま  
る。

毎日、4台のスクールバ  
スと校舎内に流れるのは、  
英語の歌やチャンツ。一定  
期間、同じCDを使い続け  
ることで、「英語」を自然  
な形で浸透させる。続く、  
朝の会での担任と児童のや  
りとりや、放送委員による  
校内放送も原則英語。最初  
は児童も教員も戸惑いを見  
せたが、今ではすっかり定  
着した。

## 英語、音楽の「日常化」目指して

こうした「英語日常化」  
の取り組みを始めたのは、  
平成25年度に赴任した校長  
の清水礼子。世羅町は以前  
から英語教育に力を注いで  
おり、小学校の全学年で外  
国語活動を展開して10年に  
なる。清水は、町の施策に、  
自分の思いやアイデアを盛  
り込んで「日常化」をスタ  
ートさせた。入学式など各  
種式辞でも、必ず英語を挿  
入する。児童の清水へのあ  
いさつも、まずは英語が先  
に出る。

清水が「英語日常化」を  
進める背景には、過去のほ  
ろ苦い経験がある。小学5  
年生のとき、米国人と家族



「子どもを着実に変える」実践を  
することが校長の使命と語る清水

ぐるみで付き合うことにな  
り、英語への興味・関心が  
高まった。中学校の英語の  
教科書を使って教えてもら  
うものの、「自分のもの」  
にできるのは2年生の妹は  
かり。妹が流ちょうに英語  
で会話する姿を見て、「外  
国語を身に付けるならば、

早ければ早いほど良い」と  
実感した。  
せらにし小で活動を始め  
るに当たり、大学教授に相  
談を持ち掛けると、「本物  
を目指しなさい。『日本語  
英語』では、子どもに嘘を  
教えることになる」と助言  
を受けた。早速、自身の発

音やイントネーションをチ  
ェックしてもらい、「お墨  
付き」を得て踏み切った。  
発音などは今でも、ALT  
のチェックを受け磨き続け  
ている。  
清水が英語を徹底する姿  
を見て、赴任当初、地域で  
は「今度の校長先生は外国  
人」と噂が立った。保育所  
の園児の中には、「校長先生  
は、英語しか通じない」と  
本気で信じる子までいる。  
清水はこうした誤解をあ  
えて否定しない。「人は相  
手の全てを知ってしまうと  
興味を失う。校長たるもの、  
少し『謎』があるくらいが  
ちょうどいい」

清水を「英語教師」だと  
勘違いする人もいるが、も  
ともとは中学校で音楽を教  
えていた。指導主事など教  
育行政の時代に多数の小・  
中学校を回るうち、小学校  
教育のアイデアが次々と浮  
かび、管理職選考では、自  
ら小学校勤務を希望した。  
その夢がかなったのは、  
平成20年度。新任校長とし  
て、敷地内の環境整備に張  
り切って臨んだところ、  
「草一本までかわいく思え  
た」。これから、この一本  
を含めた全てに、自分のア  
イデアが反映できる―と感  
じたためだ。  
学校経営で最も大事にす  
るのは、人の強みを生かす  
こと。全教職員から特技を  
聞き出し、子どもたちにも  
発信する。殺し文句は、  
「やってみなさい。あなた

の力の出しどころ」。  
清水自身の強みは、やは  
り音楽。せらにし小では、  
地域の協力を得ながら、和  
太鼓の充実に心血を注ぐ。  
「小学生にしてはよくでき  
た、というレベルでは意味  
がない」と「平打ち」だけ  
でなく、「横打ち」「寝打  
ち」にもチャレンジさせる。  
町教委が主催する「輝く  
せらの学校文化発表会」で  
披露したところ、各地から  
演奏依頼が殺到した。  
「世間での世羅のイメー  
ジは、駅伝。私は私の強み  
を生かし、いつか『音楽の  
世羅』と呼ばれるようにな  
りたい」  
当面の目標は、「英語と  
音楽」の取り組みを保護者  
や地域に広げ、日常化する  
ことだ。  
(敬称略、終わり)